

寄 せ 蛾 記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Konchū Danwakai

目 次

新井 裕	:	寄居町深沢川のトンボ I. 成虫の産卵場所並びに幼虫数の季節変動	・ 591
杉田 正之	:	オオムラサキの資料についてのお願ひ	・ 594
小堀 文彦	:	オオチャバネセセリの吸いもどし行動の観察例	・ 595
牧林 功	:	日高町吊着田の甲虫類	・ 596
—————	:	三峰の甲虫の記録	・ 597
原 聖樹	:	川越市9月末の蝶メモ	・ 597
杉田 正之	:	蝶の観察ノートより	・ 598
加藤 輝年	:	中津川溪谷でウスイロオナガシジミ	・ 599
市川 和夫	:	児玉郡神川村の秋の蝶	・ 599
碓井 徹	:	埼玉県の蝶に関する覚え書き (7)	・ 600
小田 博	:	大輪でオオチャイロハナムグリを採集	・ 602
小堀 文彦	:	私も採集しました、平地のゴマシオキシタバ	・ 603
		・ 新年会 (有志) 開かれる	・ 603
		・ 北本市石戸宿周辺昆虫類調査会のお知らせ	・ 604
		・ お知らせ (春の談話会、夏の宿泊談話会)	・ 605
		・ 金曜セミナーの報告	・ 606
		・ 会 報	・ 607
		・ 編集後記	・ 608
		・ 付 録	



寄居町深沢川のトンボ

I. 成虫の産卵場所並びに幼虫数の季節変動

新井裕

流水性のトンボの中には、上流で産卵して下流で羽化する種があるように思われる。

この点を実証することは困難であるが、とりあえず、同一地点において幼虫のサンプリングを行い、幼虫の季節変動を調べることによって、幼虫の流下の問題を解く手掛りを得ようとした。以下、調査結果を報告する。

調査場所

調査の対象とした川は、埼玉県大里郡寄居町の深沢川である。この川は、寄居町南部の山間に源を発し、延長は約5.5kmで正喜橋付近の荒川右岸にそそいでいる。

この川を調査の対象とした理由は、延長が短かく調査がしやすいためと、筆者の10年来の観察フィールドとしており、成虫の生息状況について把握しているためである。

調査地点は国鉄八高線の折原駅の近くで、約100mの範囲とした。この範囲の川幅は3~5mで、水深は最大部でも約1mと比較的浅い。底の状態は礫および砂礫の部分が多く、よどみは砂泥、または泥となっている。全般に流速は緩やかで、平瀬と淵とが交互に続いている。

この地点において、1984年1月14日、4月26日、5月20日、6月16日、7月1日、8月16日、9月30日、11月~~10~~¹¹日に、ザルで幼虫を採集し、採集種名と個体数を記録した。6月28日と7月28日にも調査に訪れたが、その前に降った大雨のために増水して岸辺に近付けない状態であったので、調査しなかった。また、1月14日には瀬の部分を除いて結氷していたので、氷を割って採集を行ったものの、氷が厚くて割れない場所も少なくなく、十分な調査が行えなかった。

結果

1. 成虫の生息状況

過去10年間に同地において観察した経験から、おおよその成虫の生息状況をまとめたのが表1である。この地域ではこれまでに14種の流水性の種を確認し

ており、春にはカワトンボ、ダビドサナエ、ミヤマカワトンボの3種が多く、夏にはコオニヤンマとオニヤンマが普通にみられる。

表1. 観察地点における各種成虫の目撃頻度

種	虫 態	テネラル	成熟雄	産卵雌
カワトンボ		+++	+++	+++
ミヤマカワトンボ		++	++	++
ハグロトンボ		+	+	+
ダビドサナエ		+++	+++	+++
オジロサナエ		++	+	+
ヤマサナエ		++	++	+
ヒメサナエ		+	++	+
アオサナエ		+	++	+
オナガサナエ		++	+	+
コオニヤンマ		++	++	+
オニヤンマ		+	++	+
ミルヤンマ		+	+	+
コシボソヤンマ		+	+	+
コヤマトンボ		+	+	+

これらの種のうちアオサナエは、成熟雄が比較的普通であるのにテネラルな個体は少なく、逆にオジロサナエはテネラルな個体（羽化殻も多い）は多いのに成熟虫や産卵はほとんど見られなかった。一方、カワトンボ、ミヤマカワトンボ、ダビドサナエの3種では、テネラル虫から成熟個体までいろいろなエイジの個体が見られ、産卵行動も普通に見られた。

+++ やや多い ++ 普通 + 少ない

2. 産卵場所

成虫の生息を確認した14種のうち、同地において産卵行動を観察したのは12種で、それらは下記のような場所で産卵を行った。

- 1) カワトンボとハグロトンボ：瀬の部分に浮かぶ流木や木片、岸辺から垂れ下がった雑草などである。
- 2) ミヤマカワトンボ：前種と同様であるが、本種の場合には潜水産卵も行う。
- 3) ダビドサナエ：岸辺の雑草上や礫上で停止飛翔産卵を行う。卵は1粒ずつ地上に落下する。
- 4) アオサナエ：主によどみの部分の水面上で停止飛翔産卵を行い、卵は塊りで水面に落下する。瀬で産卵することもある。
- 5) オナガサナエ：瀬の部分の水面上で停止飛翔産卵を行う。卵は塊りで水面に落下する。
- 6) ヤマサナエ：日当りのよい瀬の部分で間欠打水産卵を行う。
- 7) コオニヤンマ：きわめて水深の浅い瀬の部分で間欠打水産卵を行う。

- 8) オジロサナエ：水深がなく、水がわずかに浸み出しているような礫の多い場所の間欠打水産卵を行う。
- 9) コヤマトンボ：比較的水深のある淵の部分を、行きつ戻りつしながら間欠的に打水して産卵する。
- 10) オニヤンマ：岸辺の砂底～泥底となった浅く流れの弱い場所で産卵する。
- 11) コシボソヤンマ：水面から突出したコケでおおわれた石に産卵するのを / 例見たのみ。

3. 主な種の幼虫の生息場所

- 1) カワトンボ：岸辺に生えている雑草の根元やゴミなどがひっかかっている場所。瀬よりも淵に多い。
- 2) ミヤマカワトンボ：岸辺の雑草の根元で、よどみに見られる。
- 3) ダビドサナエ：よどみの部分の砂泥底に多いが、平瀬の礫底にも見られる。
- 4) アオサナエ：瀬の部分の砂礫底に見られる。
- 5) ヤマサナエ：よどみの部分の泥底に限って見られる。
- 6) オジロサナエ：よどみの部分の砂泥底に多い。
- 7) コヤマトンボ：水深がやや深くて、落葉がたまっているようなよどみに見られる。

以上のように、トンボ類の幼虫は概して流れの緩やかな泥質の場所に多く見られた。

4. 幼虫数の季節変動

1月から11月に同一地域で幼虫のサンプリング調査を行った結果を表2に示した。

オジロサナエは4～5月には多数の幼虫（大部分が終齢かその1つ前）が見られたが、それらが羽化を終えた7月以降には激減した。一方、ダビドサナエでは、羽化期を過ぎても多数の若齢幼虫が見られた。両種共1世代に2～3年を要するものと思われ、何故オジロサナエの若齢幼虫が少ないのか興味を持たれる。

前述のように、オジロサナエは未成熟成虫は多いのに反して成熟個体や産卵行動を見かけることは極めて稀である。このことから、本種は上流で産卵が行われ、若齢期を上流で過ごしたのち、羽化が近付くと下流へ下って来るのではないかと推察される。

今後、調査地域を上流にも設け、この点を究明したいと考える。

オジロサナエとダビドサナエ以外の種では個体数が少なく、季節変動を議論するような資料が得られなかった。

表 2. 調査地点における各種幼虫数の採集例

種 名	調 査 日							
	1/14	4/26	5/20	6/16	7/ 1	8/16	9/30	11/11
カワトンボ	2	5	0	0	0	0	1	5
ミヤマカワトンボ	0	1	0	0	0	0	3	5
ハグロトンボ	0	0	0	1	0	0	0	0
ダビドサナエ	0	19	6	若齢多数	若齢多数	57	46	47
オジロサナエ	3	39	39	6	3	2	3	5
ヤマサナエ	0	3	7	0	2	3	8	13
ヒメサナエ	0	2	1	0	0	0	0	0
アオサナエ	0	10	0	3	4	0	3	3
オナガサナエ	0	0	0	0	0	0	0	0
コオニヤンマ	0	0	0	1	1	6	0	2
オニヤンマ	0	2	3	0	2	1	0	8
ミルンヤンマ	0	0	0	0	0	0	0	1
コンボソヤンマ	3	3	1	4	0	2	3	1
コヤマトンボ	0	0	0	0	0	1	0	4

(あらい ゆたか 〒369-12 大里郡寄居町末野 1233-2)

* オオムラサキの資料についてお願い!

杉田 正之

私が嵐山町のオオムラサキの森づくりに携わってから、色々な方から、オオムラサキは現在どんな状況にあるのか、又分布の推移はどうか聞かれる機会が多くなりました。嵐山町については今まで目で確かめてきた事を説明すれば納得してもらえが、他地域の事となると、お手上げである。

それなら実際どの位少なくなっているのか、又絶滅してしまった生息地は、どの位あるか調べてみようと思ひ、手持の文献を漁ってみました。報告されているものはありませんでした。

どなたか、もし資料又は文献をお持ちの方がありましたら、ぜひ拝見させて下さい。県内はもちろん全国どの地域のものでもかまいません。

御協力をお願い致します。

(すぎた まさゆき ☎ 355-02 比企郡嵐山町菅谷 87-3)

オオチャバネセセリの
吸いもどし行動の観察例

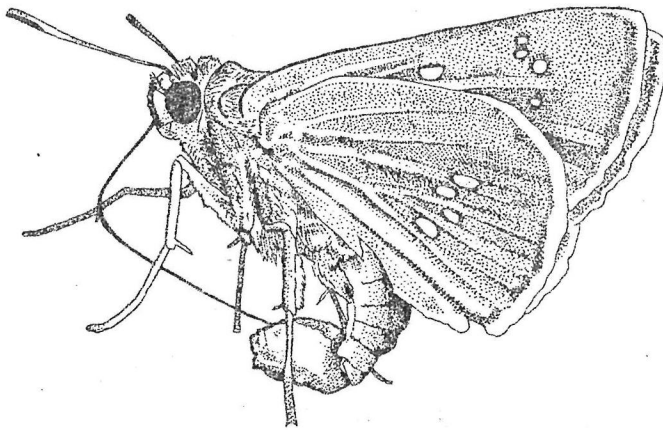
小堀 文彦

オオチャバネセセリの吸いもどし行動を、偶然観察することができたので報告する。

筆者は“吸いもどし行動”という言葉自体は知っていたが、実際に出合ったのは初めてのことであった。また、出勤間際だったこともあり、ポイントのはっきりしない報告となってしまったが、どうかご容赦いただきたい。

観察場所、日時：1984-Ⅷ-29 (晴) 桶川市下日出谷

場所は雑木林の南縁にあたる所だが、張り出した枝の影が落ちていて陽影になっていた。下草の上に、完全に乾いている鳥のフンがあり、そこで、やや飛び古した本種のオスが吸いもどしをしていた。口吻はフンに接しながらせわしく動し続け、およそ10秒間隔で尾端より水滴を出してはフンにつけていた。



翅は半開しているかと思うとパッと閉じ、また半開するというパターン。

発見したのが8:46 a.m.、雌雄確認のために捕えたのが9:03 a.m.、であるから、少なくとも17分間はそうしていたことになる。

(図は筆者撮影の写真より作成)

(とほり ふみひと 〒363 桶川市下日出谷1368-5)

日 高 町 吊 着 田 の 甲 虫 類

牧 林 功

1983年9月10日、入間郡日高町吊着田においての灯火採集に参加した。そのおりに採集した甲虫類をまとめておく。同定はすべて平野幸彦氏にお願いした。同氏に厚く感謝する。標本は *Curculio* sp. としたものは平野氏が、他はすべて小田博氏が保管される。

ゴミムシ科

1. ヒョウゴミズギワゴミムシ *Bembidion hiogoensis* BATES 2 exs.

“埼玉県動物誌 (1978)” (以下たんに動物誌とする) に未記載。

2. オオゴモクムシ *Ophonus capito* MORAWITZ / ex.

ゲンゴロウ科

3. ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* STEPHENS / ex.

ハネカクシ科

4. ユミセミゾハネカクシ *Thinodromus sericatus* SHARP / 3 exs.

“動物誌” に未記載。

5. キアシナガハネカクシ *Lathrovium pallipes* SHARP / ex.

6. カクコガシラハネカクシ *Philonthus rectangulus* SHARP / ex.

7. ドウガネコガシラハネカクシ *P. aeneipennis* BOHEMAN / ex.

“動物誌” に未記載。

ヒラタドロムシ科

8. ヒラタドロムシ *Mataeopsephenus japonicus* MATSUMURA / 6 exs.

ハムシダマシ科

9. ハムシダマシ *Lagria nigricollis* HOPE / ♂ / ♀

ゾウムシ科

10. シギゾウムシの / 種 *Curculio* sp. 2 exs.

(まきばやし いさお 〒330 大宮市天沼 2-864)

三 峰 の 甲 虫 の 記 録

牧 林 功

1983年、1984年の宿泊談話会で採集した甲虫4種を記す。標本同定は平野幸彦氏、保管は小田博氏である。

ゴミムシ科

1. ガロワミズギワゴミムシ *Bembidon galloisi* NETOLITZKY 2 exs.
 “埼玉県動物誌 (1978)” に未記載。

ジョウカイボン科

2. マルムネジョウカイ *Prothemus ciusianus* KIESENWETTER / ex.

ハムシ科

3. ヒゲナガウスバハムシ *Stenoluperus nipponensis* LABOISSIÈRE / ex.

オトシブミ科

4. ゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus pardalis* SOUENHOVEN / ex.

(まきばやし いさお 〒330 太田市天沼2-864)

川 越 市 9 月 末 の 蝶 メ モ

原 聖 樹

1984年9月30日 12:00~13:00 (晴)、川越市西川越の入間川堤防内で、次の蝶を確認した。

オオチャバネセセリ / ♀、イチモンジセセリ 2 ♂※、アゲハ / ♀、クロアゲハ / ♂、キチョウ 2 ♀、モンシロチョウ 多数 ♂ ♀※、ベニシジミ 4 ♂ / ♀※、ヤマトシジミ 2 ♂ / ♀、ミドリヒョウモン / ♀※、アサマイチモンジ / ♀、キタテハ / ♀※、ヒメウラナミジャノメ / ♀。

なお、ニンジンにキアゲハの亜終令~終令幼虫が、またキャベツにモンシロチョウの卵が、各々多数見られた。※印は訪花個体。

(はら せいき 〒220-02 津久井郡津久井町中野 6/7 北相寮)

蝶の観察ノートより

杉田 正之

*エゾミドリシジミ♀の吸水行動

1984年8月9日 新潟県の赤湯に中1の息子と2人で採集に行った折、AM7時40分頃少し湿った路上で、朝日を浴びてとまっていた♀の個体（翅は閉じていた）をみつけた。

観察をしようと近づくとすぐ飛びたってしまう、おちつかない様であったが、少し飛んでとまり口吻をのばし吸水を始めた。2分ほど観察してから採集し、生かして持ち帰り、人工採卵により30卵ほど得た。

♂の吸水行動は、かなり報告されているが、♀の記録は少ないと思われるので、ここに報告しておく。

*シルビアシジミの交尾

1984年9月29日 PM2時頃、山梨県富士川の堤防にてシルビアシジミの交尾を観察したので報告しておく。

♀は新鮮な個体であったが、♂はかなり飛び古し鱗粉が剥げおちていた。

交尾個体は地上より30cm程の高さのイネ科植物の葉に止まっており、多少葉を揺らしたくらいでは飛びたらず、♀が後脚で腹をこする様な仕種を何回も繰り返していた、無理やり飛ばしても10cm位しか飛ばず、すぐ止まってしまう、自然状態ではよほどの事がないかぎり、飛ぶ事はないと思われる。

交尾飛翔形式は原色日本蝶類生態図鑑によると♂♀十♀と記載されているが、私の観察した個体は♂♀十♂であった。

【参考文献】 原色日本蝶類生態図鑑 (3) 保育社

(すぎた まさゆき ☎355-02 比企郡嵐山町菅谷87-3)

中津川溪谷でウスイロオナガシジミ

加藤 輝 年

ウスイロオナガシジミ *Antigius butleri* は、埼玉県内では奥武蔵高原（外秩父山地）と武甲山から知られているが、中津川溪谷でも採集したので報告する。

1 ♀ ⊙（ミズナラに止まっていたもの）

採集地：秩父郡大滝村中津川料金所

採集日：1984年7月22日

なお表題からはずれるが、奥武蔵高原のなだらかな所には大里ローム層（約2万年前に浅間山からもたらされたと推定されている）がのっており、この付近の蝶相の成り立ちをさぐる手がかりになるかもしれない。

（かとう てるとし 〒357 飯能市双柳5/2-3）

児玉郡神川村の秋の蝶

市川 和 夫

埼玉でも昆虫の記録の少ない地方である県北の丘陵を訪れる機会があり、次の蝶を観察することができた。

観察年月日 1984年（昭59）10月26日（金） 快晴・無風、11時～12時

観察場所 児玉郡神川村池田 県立神川青年の家（海拔176メートル）の南側庭園。周辺はアカマツを主とした疎林。

1. キチョウ（晩秋型） 3 ♂ (①)
2. ヤマトシジミ 約10頭 (⊙～③)
3. ベニシジミ 1 ♀ (①)
4. テングチョウ / ex. (③) シオンで吸蜜
5. キタテハ（秋型） 7 exs. (①) 同上
6. アカタテハ / ex. (③) 同上
7. ヒメアカタテハ 2 exs. (⊙) 同上
8. クジャクチョウ / ex. (③) 同上

以上すべて目撃。シオンの花には、他にコアオハナムグリが多数飛来していた。

（いちかわ かずお 〒336 浦和市南本町2-7-11）

埼玉県 の 蝶 に 関 す る 覚 え 書 き (7)

碓 井 徹

(17) 1983年 (昭和58年) の文献目録

- 神久保 美津夫 (1983) オオウラギンスジヒョウモンの産卵について,
寄せ蛾記 (39) : 451-452
- (1983) ギンボンヒョウモン, 寄せ蛾記 (39) : 452
- 小堀 文彦 (1983) 吉見町において越冬中のウラギンシジミを発見,
寄せ蛾記 (39) : 456
- 加藤 輝年 (1983) マンサクでミズイロオナガシジミの越冬卵,
寄せ蛾記 (39) : 459
- 原 聖樹 (1983) 8月下旬 西川越の蝶メモ,
寄せ蛾記 (39) : 461
- 市川 和夫 (1983) 「埼玉県の蝶類」に関する訂正の追加,
寄せ蛾記 (39) : 461
- 蝶類分布図係 (1983) 埼玉県蝶類分布資料 (I), ホシチャバネセセリ,
ヒメアカタテハ, モンキアゲハ
寄せ蛾記 (39) : 462-470
- 巢瀬 司 (1983) 北本市における6月下旬の蝶,
寄せ蛾記 (40) : 483
- (1983) クリの花で吸蜜していた蝶, 寄せ蛾記 (40) : 484
- 牧林 功 (1983) オオチャバネセセリの灯火への飛来,
寄せ蛾記 (40) : 486
- 加藤 輝年 (1983) ヒメキマダラヒカゲの水浴行動の一例,
寄せ蛾記 (40) : 487
- 碓井 徹 (1983) 埼玉県の蝶に関する覚え書き (6),
寄せ蛾記 (40) : 488-489
- 加藤 輝年 (1983) 吾野駅付近でウラクロシジミの生息地,
寄せ蛾記 (40) : 491
- 平井 勇 (1983) スジグロシロチョウの雌雄型,
月刊むし (148) : 37-38
- 碓井 徹 (1983) 荒川源流域動植物総合調査会における記録の訂正,
埼玉生物 (23) : 24
- 小川 賢一 (1983) 高麗周辺 (埼玉) の昆虫一チョウー,
都市科学 28 (11/12) : 46-57
- 仁平 勲 (1983) 白帯完全消失のミヤマカラスシジミ,
多摩虫 7 (15) : 14

※ 1982年秋から1983年にかけて、武甲山のベニモンカラスシジミをめぐってひと騒ぎがあった。この事については次回にまとめてみたい。

(18) 1984年 (昭和59年) の文献目録

- 神久保 美津夫 (1984) ムラサキシジミの小観察,
寄せ蛾記 (41) : 500-501
- 江村 薫 (1984) 久喜市の昆虫 (2) テングチョウの記録,
寄せ蛾記 (41) : 503
- 巢瀬 司 (1984) 上尾市・北本市のクロシジミは絶滅したのか?
寄せ蛾記 (41) : 504
- (1984) 上尾市・北本市における7月下旬の蝶,
寄せ蛾記 (41) : 504-505
- 加藤 輝年 (1984) 埼玉県飯能市でウスイロコノマチョウを目撃,
寄せ蛾記 (41) : 505-507
- × × × 訂正 (39) のヒメアカタテハの記録の訂正等,
寄せ蛾記 (41) : 511
- 竹内 崇夫 (1984) 近況報告 (3) , 寄せ蛾記 (41) : 512
- (1984) 近況報告 (4) ウラギンシジミ散見記,
寄せ蛾記 (41) : 513-514
- 柴崎 行雄 (1984) モンキアゲハの目撃例, 寄せ蛾記 (41) : 519
- 藤本 英夫 (1984) モンキアゲハの目撃例, 寄せ蛾記 (41) : 519
- 星野 正博 (1984) モンキアゲハの目撃記録, 寄せ蛾記 (41) : 519
- 小堀 文彦 (1984) 東松山市において越冬中のウラギンシジミを発見,
寄せ蛾記 (42) : 530
- 吉田 文作 (1984) ムラサキシジミの採集、目撃記録,
寄せ蛾記 (42) : 530
- 松井 英子 (1984) 食樹を離れて蛹化したウラナミアカシジミ,
寄せ蛾記 (42) : 537
- 神久保 美津夫 (1984) 冬のムラサキシジミの吸水, 寄せ蛾記 (42) : 545
- 埼玉昆虫談話会 (1984) 所沢市三ヶ島の昆虫類調査報告 蝶類,
〔寄せ蛾記 Supplement 2〕として発行)
- 矢島 嘉和 (1984) 森林公園のゼフィルス, 寄せ蛾記 (43) : 568-569
- × × × 訂正、補遺 (41) のウスイロコノマチョウの
報文に関して, 寄せ蛾記 (43) : 569
- 南部 敏明 (1984) 寄居町ではまだ毎年空中散布をやっています,
寄せ蛾記 (43) : 572
- 杉田 正之 (1984) ゴイシジミ前蛹の若干の観察,
寄せ蛾記 (43) : 573
- 玉木 長寿 (1984) 毛呂山町の低地でウスバシロチョウを採集,
寄せ蛾記 (43) : 574
- 杉田 正之 (1984) 嵐山町県民休養地「オオムラサキの森」の概要,
寄せ蛾記 (43) : 575

- 寄せ蛾記 (44) : 602
- 吉田 文作 (1984) 熊谷市におけるギンイチモンジセセリの記録,
寄せ蛾記 (43) : 578
- 川嶋 敬純 (1984) 都内および週辺の大型ヒョウモンチョウ類3種,
月刊むし (166) : 14-15
- 池田 真澄 (1984) ミドリシジミの斑紋異常例,
月刊むし (166) : 18-19
- 寄居町環境調査会 (1984) 寄居町三ヶ山地区植物動物調査報告書,¹⁾
埼玉県 (1984) 三ヶ山廃棄物埋立処分場建設に係る環境影響
評価準備書,²⁾
——— (1984) 同 資料編,³⁾
- 碓井 徹 (1984) 雁坂峠周辺の野鳥と昆虫の記録,
埼玉生物 (24) : 41-44
- (1984) 所沢市三ヶ島地区、6月のトンボと蝶の記録,
埼玉生物 (24) : 53

1) は、表題の調査の報告書で A4 170pp.、同年5月に刊行されている。蝶については、同地で確認された38種をリスト・アップしているが、採集データは記されていない。

2) と3) は、同年3月に埼玉県から刊行されており、2) は A4 337pp. 3) は A4 222pp. で、2冊で1セットとなっている。3) に、1) から引用した蝶類38種のリストが載っている。

(うすい とおる 〒362 上尾市壱丁目454-3)

大輪でオオチャイロハナムグリを採集

小田 博

1984年8月6日正午すぎ、生物部夏季合宿に同行した際、大滝村大輪から三峰山表参道およびロープウェイ乗り場へ向かう登竜橋を渡りきったすぐ左手の杉の根もとに静止しているオオチャイロハナムグリを1頭採集した。はじめカブトムシの♀かと思ったが、小振りなのでよく見ると本種であった。なお、碓井 徹氏もかつて同所で採ったことがある由。

(おだ ひろし 〒354 富士見市上沢3-6-15)

私 も 採 集 し ま し た、

平 地 の ゴ マ シ オ キ シ タ バ

小 堀 文 彦

本誌[※]上において宮川哲男氏がすでに、ゴマシオキシタバの平地における記録を報告しておられるが、筆者も本種を平地より得ているので記録にとどめておきたいと思う。

/ex. 上尾市丸山 (丸山公園北口のアヒル池の中)

1984-IX-2 1:30 p.m. 頃

この個体は林の中から飛び出たものが、その直後池に落ちてしまい、それを採集したものなので (しかもバドミントンのラケットで) 鱗粉が多少落ちてしまったが、もとは新鮮であった。当日、林の中のクヌギには、多数のコシロシタバが静止していた。

9月3日から5日まで、夜間3回早朝/回の追確認調査を行ったが、カトカラは数頭のコシロとキシタバ/ex.のみであった。

※宮川 哲男 (1984) ゴマシオキシタバ平地の記録2例
寄せ蛾記 No 43 p.582

(こぼり ふみひこ 〒363 桶川市下日出谷/368-5)

新 年 会 (有 志) 開 か れ る

1月26日(土)、27日(日)の1泊2日で、有志による新年会がおこなわれました。参加者は15名、26日の夕方、会場の「埼玉 厚生年金休暇センター」(越生町)に集合してまずは宴会、にぎやかな座をそのまま10畳の和室に移して2次会となりました。話題の中心は、何と「オサムシの美学」でありまして、これは、昨夏に入会したA氏によるさりげなくも鮮かな話術によって、参加者各々が隠し持っていた?過去のオサ掘りの経験が見事に掘り出されたためでした。参加者某氏のつぶやき「もうカトカラの時代は終わった・・・」が、当会の未来を暗示しております。翌日、奥秩父丸山にて、「オサ掘りゼミナール」と「採卵ゼミナール」が行われ、昼頃に現地で解散をしました。

〔参加者〕赤羽トモ子、阿部光典、市川和夫、碓井徹、小田博、加藤輝年、笹井厚子、神久保美津夫、杉田正之、竹内崇夫、築比地秀夫、氷室美芳、牧林功、松井安俊、山崎正則